（SWR＋WTC）型光ケーブル

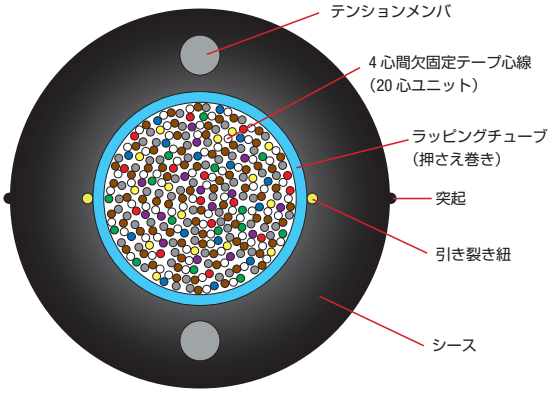
在庫あり 在庫しているタイプ・心数がありますので、お問い合わせください。

細径高密度型
光ファイバケーブル

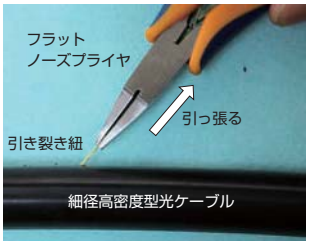
在庫あり

SR15 SR15E

標準： WB



＜300 心構造＞



引き裂き紐を引っ張ってシースを裂く場合には、フラットノーズプライヤや平口リードペンチなどで、くわえ部が平らなもの（ギザ無し、溝無し）を使うと便利です。

■ SWR テープと WTC 構造の最新光技術を利用し同じ心数のスロット型光ケーブルと比べて飛躍的に細径・軽量化を実現したケーブルです。
■ 中間後分岐が可能な光ケーブルです。
■ 中間後分岐作業での引き裂き紐の取り出しには、弊社製の専用工具「SWR 用シース除去工具」を推奨します。
■ ケーブル端部では、汎用工具で引き裂き紐を取り出し、口出し作業ができます。
■ 間欠固定テープ心線は専用工具を用いることなく単心分離が可能です。
■ 標準タイプは吸水材を使用した防水仕様です。

項目	型番	4心間欠固定テープ型 OG4WTZWBE SR15E						8心間欠固定テープ型 OG8WTZWBE SR15E		
心数	（心）	24	40	60	100	200	300	400	640	1000
標準外径	（mm）	9.0	9.0	9.5	10.0	12.0	13.0	14.0	16.0	18.5
標準質量	（kg/km）	65	65	70	80	110	135	150	185	260
許容張力 *1	（N）	830	830	830	830	1270	1760	1760	1760	2350
許容曲げ半径（mm）*2	延線時	180	180	190	200	240	260	280	320	370
	固定時	90	90	95	100	120	130	140	160	185
テープファイバ		4WT						8WT		
テープ枚数		6	10	(15)	(25)	(50)	(75)	(50)	(80)	(125)
ユニット数	20 心ユニット（4WT × 5）	-	-	3	5	10	15	-	-	-
	80 心ユニット（8WT × 10）	-	-	-	-	-	-	5	8	13 *3

＊ファイバ種別、オプション等により値が異なる場合があります。
*1：布設時の屈曲部用金車には、曲率半径 300mm の 11 連金車が適しています。
曲率半径 300mm の金車を使用する場合は、表記載の許容張力または 1470N の低い方の値以下で布設してください。（表記載の許容張力は、直線で引っ張った場合の値を記載しています。）
*2：テンションメンバ平行方向のみ
*3：13 番ユニットのみ 40 心ユニット（8WT × 5）になります。

ご注文 型番例

OG4WTZTWBE SR15E × 100C（レングスマーク）

在庫あり
OG4WTZTWBE SR15E ×□ C（レングスマーク） 【□：心数 24、40、60、100、200、300】
OG8WTZTWBE SR15E ×□ C（レングスマーク） 【□：心数 400、640、1000】
OG4WTZTE-SSW(10SQ) SR15E ×□ C（レングスマーク） 【□：心数 24、40、100、200】
※在庫品種は予告なく変更することがあります。

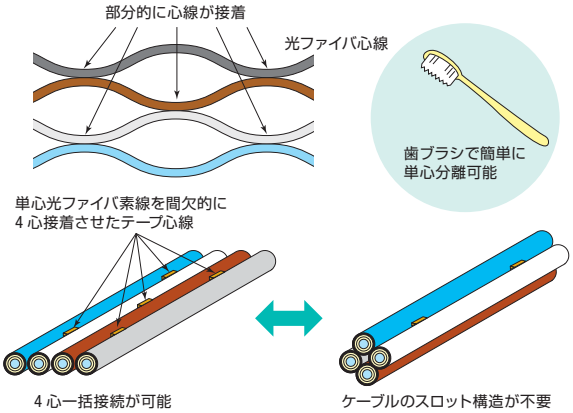
SWR+WTCの最新光技術を利用し、光ファイバケーブルを更に細径･軽量化し製品化しました。これにより、既設設備（管路、ビル内スペース）の有効活用、共架柱への負荷低減、ケーブル架線作業が容易になる等のトータルコストダウンに寄与します。

■ 特徴 1

Key Technology ①

Spider Web Ribbon® (SWR®)

■ 複数心の光ファイバを並列して間欠的に接着。
■ 容易に変形することによりケーブルのスロット構造が不要。
■ 接続時は並列形状に復帰し、テープ一括接続が可能。

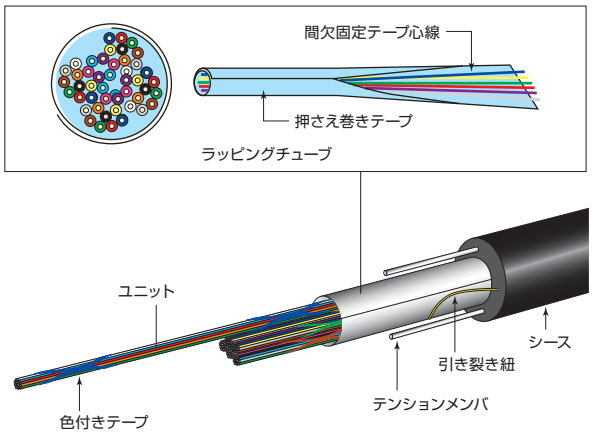


■ 特徴 2

Key Technology ②

Wrapping Tube Cable® (WTC®)

■ SWR を押さえ巻きテープでラッピングした構造になっています。
■ シース除去作業で安心、安全に口出しすることが可能。



＊ SSW®+WTC® は、ケーブルの細径・軽量化を図る上で必須の最新かつ未来指向型の Key Technology です。

■ 特徴 3　ユニット

■ 心数の多い光ケーブルでは、色付きテープを使用して、4 心間欠固定テープ心線（4WT）× 5 枚 を束ねて 20 心ユニットを、または、8 心間欠固定テープ（8WT）× 10 枚 を束ねて 80 心ユニットを構成し、さらに複数のユニットを集合してケーブル化しています。
■ ユニットの識別は、色つきテープの”色”で行います。
■ テープスロットケーブルで一つのスロット（溝）に入っていたテープをそのままユニット化する設計ですので、溝番号とユニット番号が一致しており、融着トレイ等へは、ユニットのまま引き回すことが可能です。